

Q-1

●もっと知りたいあなたへ

Q-2

# 子宮内膜症って なんですか

●

このパンフレットを  
よく読んで  
「子宮内膜症」への理解を深め  
治療に際して  
お医者さんとのコミュニケーションの  
指針にしてください

●

病医院名

提供：武田薬品

発行：福田商店

監修：東京大学名誉教授 坂元 正一





子宮内膜症は近年、  
女性のライフスタイルの変化などにより  
増えてきた病気です。

子宮内膜症は、1960年代まではまれな病気と考えられていたため、あまり注目されていませんでした。しかし、最近では診断法の進歩や女性のライフスタイル等の変化により、発症の機会や発見頻度が著しく増え、治療される産婦人科疾患の中の30%近くを占めるため、たいへん重要な病変と考えられるようになってきました。

原因はまだはっきりと解明されていませんが、20～30歳代で発症し、放っておくと年を追うごとに症状が悪化し、不妊症や子宮外妊娠の原因になったり、場合によっては、手術で子宮や卵巣も取ってしまわなければならないこともあります。

がんのように悪性ではないので、生命に直接影響する病気ではありませんが、快適な生活をおくるために早く治療を受けたいものです。





主な症状は月経痛、腰痛、性交痛などで、  
不妊症の原因になることもあります。

代表的な症状は月経痛です。場合によっては月を追うご  
とにひどくなることもあります。  
この他にも、主な症状としては腰痛、性交痛、不妊など  
がありますが、進行の程度にはいずれも個人差がありま  
す。しかも、20~30歳代で発症し、一番大切な生殖期  
間に症状が進行するので、40歳代後半頃にはかなり悪化  
していることがあります。閉経後には進行がとまるとは  
いうものの、女性にとっては長く付き合っていくこと  
になるので、早い時期の治療の大切さがお判りでしょう。

子宮内膜症では

どんな症状が現れるのでしょうか？

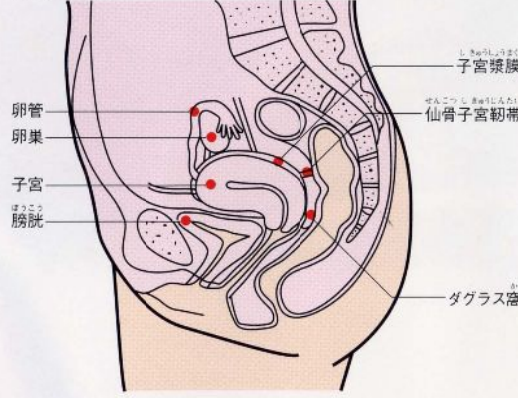
子宮内膜と同じような組織が  
子宮内壁以外の場所で、月経周期にしたがって  
増殖、出血を繰り返す病気です。

子宮の内壁は子宮内膜という粘膜でおおわれており、卵  
巣からのホルモンの働きにより、周期的に出血（月経）  
を繰り返しています。子宮内膜症は、この内膜と同じよ  
うな組織が月経の時に流れ出ることができない子宮腔以  
外の場所で増殖し、月経ごとに出血を重ねていく病気  
です。卵巣から女性ホルモンが出ている間は症状が悪化し、  
ひどくなると癒着、疼痛がひどく日常生活を妨げる程に  
なります。

子宮内膜症は、卵巣や腹膜をはじめ  
体の色々なところで起こります。

エストロゲン(卵胞ホルモン)の作用により悪化する病気の  
ため、卵巣が機能を停止する閉経まで至れば、それ以降は  
自然に治ってしまいます。思いがけないところに病気が  
転移することもありますので、早めに治療することが大  
切です。

【子宮内膜症のできやすい場所】



どんな病気かで、どこに起こるのですか？

子宮内膜症とは

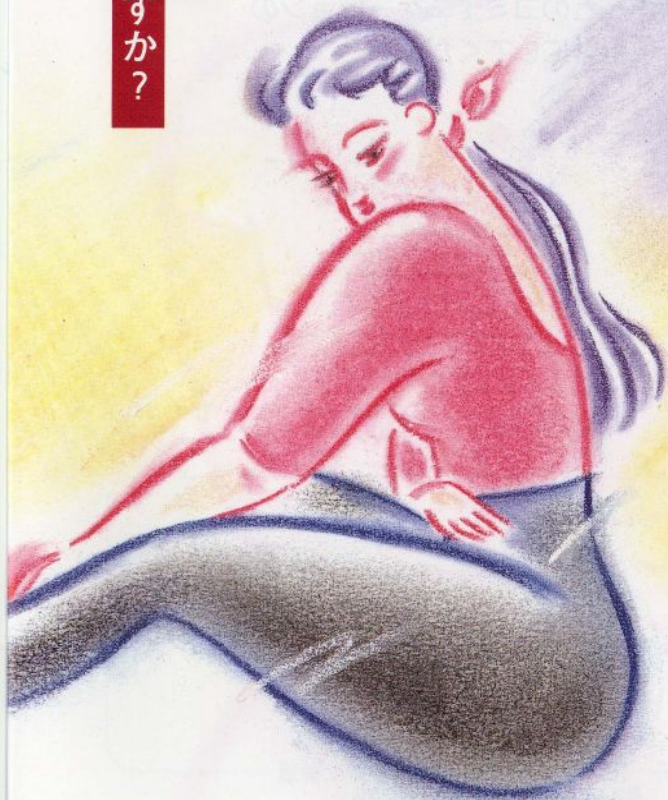


④-1

子宮内膜症の診断は、  
どんな方法で行われますか？

通常は問診、内診、超音波および血液検査などにより子宮内膜症と診断されて治療されます。

臨床的には、問診、内診、超音波および血液検査などにより、医師は子宮内膜症と診断して治療を開始しています。また、はっきりした診断(確定診断)をするためには、腹腔鏡(麻酔をし、おなかに約1cm前後の小さな切り傷をつけて中を診る検査法)などで直接視て決めることも少なくありません。



④-2

子宮内膜症に対する  
治療法は、どんな種類があるのでしょうか？

年齢にもよりますが、妊娠を希望するかどうかで治療方法は大きく変わります。医師ともよく相談した上で、あなたにとって最良の治療法を決めることが重要です。

「クスリ」、「手術」、「クスリと手術の両方」の3つの方法があります。

かつては手術が中心でしたが、現在では、まずクスリ(薬物療法)、次に手術という選択順が一般的となっています。それは、子宮内膜症が直接生命に影響を及ぼす病気ではなく、クスリの効用も高くなり、患者さん自身が、手術よりもクスリでの治療を望むケースが増加しつつあるからです。ただ、進行度によっては手術を行わなければならないケースもあります。

①クスリによる場合

薬物療法では、主としてホルモン剤が用いられます。注射剤、カプセル剤、点鼻剤などがあります。

②手術による場合

卵巣と子宮を取ってしまう場合(根治療法)と残す場合(保存療法)がありますが、卵巣機能を失う根治療法は、若い人や子供を欲しがっている人には行いません。

③クスリと手術の両方の場合

手術前や手術後にクスリが用いられることもあります。主として症状が進んでいる場合の治療法といえます。